

浮遊式海洋構造物の実海域実験

その1 実験の概要

At-Sea Experiment of a Floating Offshore Structure

Part 1 Outline of Experiment

序 文

運輸省は海洋空間の有効利用を目的とし、運輸技術研究開発調査費による「海洋構造物の沖合展開のための開発研究」を1986年度から1990年度までの5年間実施した。その中で、船舶技術研究所は「浮遊式海洋構造物の開発研究」を担当しプロトタイプ of 浮遊式海洋構造物POSEIDON号による実海域実験を4年間実施し、多くの貴重なデータを収録し1990年7月に終了した。

この研究に先立ち、1982年度から5年間、科学技術振興調整費による「海洋構造物による海洋空間等の有効利用に関する研究」が実施されたが、その中で当所は浮遊式海洋構造物の建造技術の研究を担当した。この研究の最後の2年間は浮遊式海洋構造物の実海域実証研究が主要課題であり、POSEIDON号はこの研究の中で1985年度に建造され、1986年の夏に山形県鶴岡市由良の沖合に設置された。この研究はその後上記の「浮遊式海洋構造物の開発研究」に引きつがれ実施された。

本実海域実験は気象庁、海洋科学技術センター、(財)日本海事協会、民間企業8社(石川島播磨重工業(株)、新日本製鉄(株)、住友重機械工業(株)、大成建設(株)、日本鋼管(株)、(株)熊谷組、東京製綱(株)及び三井海洋開発(株)(1986年度～1988年度))、(社)日本塗料工業会との共同

研究として実施された。

本報告は、この実海域実験の成果報告の第1報として、実験の目的、実験構造物、実験実施体制、実験の経過、データ計測および解析処理、データ取得状況及び設計値と実測値について報告したものである。今後は、第2報として研究報告、第3報としてデータ資料集を刊行する予定である。実験の実施にあたっては、関係官庁、山形県漁業協同組合及び由良支所、地元の方々など多くの方面からご協力をいただいた。

最後に、この研究の完成を前にして永眠された、本研究のプロジェクトリーダーであられた前海洋開発工学部長 安藤定雄氏のご冥福を心よりお祈りいたします。